

最新の上海の木材市場レポート

近年、木材の輸出入に関連して中国の市場動向に関心を持つ人も増えてきています。

そこで、長野県森林組合連合会を通じて中国輸出に取り組んでいる北信州森林組合総務課長の田中忠さんが中国は上海視察に参加し、そこで見てきた中国市場の状況についてレポートしていただきました。



世界から木材が集められ集荷される上海港。日本からも九州と青森からの木材が荷揚げされていた

<製材所>



オガ粉の運搬も人力である



結束は手作業で行われていた

トレーラーで運ばれてきた原木。
この日は九州からのスギが運ば
れていた



製材工場。手前が製品。奥にはこれから製材される丸太が見える



製材機で製材の作業を行う作業者。
人力で丸太を送っている

中国の住宅事情
基本的に中国は集合住宅であり、戸建ての木造建築を立ててはいない。かつては木造戸建てが主流であり、紫禁城など歴史的建造物は木造で建てられているが、森林を耕地に変えてしまったために森林資源が著しく減少したためにレンガによる建築が多い。近年は鉄筋コンクリートや鉄骨構造な

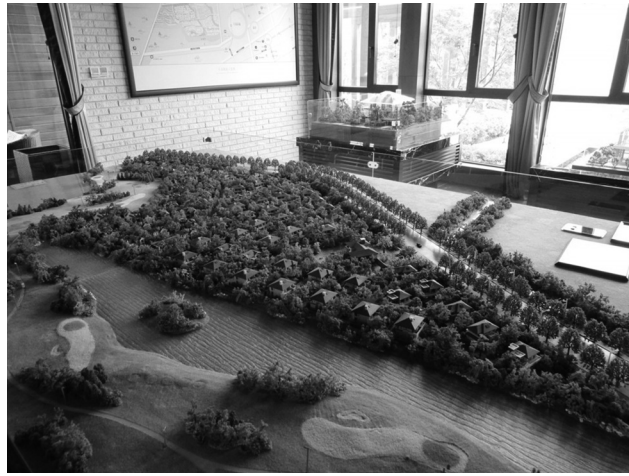
上海の木材製品市場
上海市内の製材品や木工品を加工販売する市場団地では、前述の製材所で製材したような製品などの他に、様々な製材加工品が小売りされている。また、家具などの木工加工を専門に手掛ける店舗もあり、木工団地的な位置づけにあると思われる。
販売されるマンションなどには内装工事をしていない状態で販売されるため、一般市民がこうしたところに材料を購入しにくるという。

作業員は農村部からの出稼ぎが中心で、工場に隣接した簡易な宿舎に住んでいる。製材している作業者の給与は日本円で10万円を超えるといい、上海の大学新卒者の給与が6万円程度であることを考えれば高収入といえる。

そのほかに丸鋸による裁断や梱包、オガ粉の片付けまですべて手作業で行っている。1日に大型トレーラー1台分の丸太を製材し、月間の加工量は約1000m³。丸太の歩留まりは100%以上になり120%になった例もあるという。

上海の製材所
視察に訪れた製材工場では、九州から輸出されていたスギを製材していた。製材工場には帯鋸が3基あるが、送材車はなく丸太を人間が二人で持ち、人力により材を送るなどして、すべて人力で行っている。

<別荘開発>



上海市内のゴルフ場の隣接する高級別荘地の全体模型



ツーバイフォーの木造建築の模型



カリンの天板を扱う店



上海の木材製品市場で販売されていた製材品



木工所が併設されている店舗が多い



家具などの木工品も販売されている

別荘開発

基本的に戸建て住宅は許可されないが、別荘に限っては許可されるといふ。開発業者が長期契約で土地を借りて、戸建てや集合住宅の別荘を建てて売り出している。

今回の視察では上海市内で上海市政府が全額出資する上海実業有限公司が余山で開発する別荘地で住友林業現地法人が請け負った物件を見学した。

淀山湖岸のゴルフ場に隣接する高級別荘地である。地上2階、地下1階の建坪150坪の物件で、販売価格は内装のない状態で2億円。内装工事は1億円ほどで総額3億円の物件である。しかし居住する者はほとんどなく、購入者は多くは投資目的である。

写真は住友林業が請け負った別荘。ツーバイフォーの木造で軸組構造はまだ手掛けていないとのことである。

(写真・文)北信州森林組合

田中 忠

※詳しくは北信州森林組合Pに懇話会掲載中

<木材製品市場>

どの建物となっている。
また、中国では土地についてはすべてが国の所有であり、個人が所有することはない。そのため個人所有の住宅というものは存在しない。
政府から開発業者などが長期の借地契約(70年)をして、マンションなどの集合住宅を建て販売している。ただし、マンション販売といってもあくまで居住権の販売である。ちなみに上海ではマンションの価格は㎡単価100万円を超えているという。
なお、販売されているマンションは内装工事は行われないため、内装は購入者が行う。サラリーマンの初任給が6万円程度であるので、一般市民がマンションを購入することなど考えられない。上流階級の投資目的での購入が多いため、依然として価格は上昇しているという。

<別荘開発>



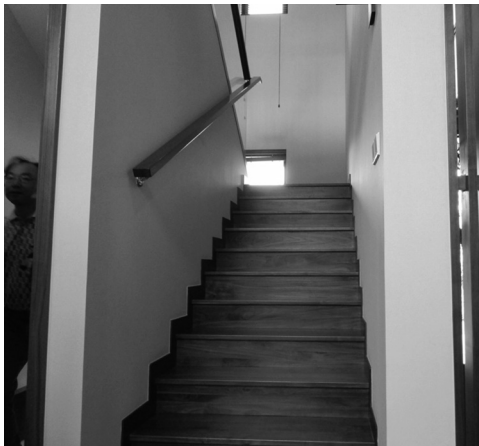
落ち着いた木調がモデルルームのキッチンダイニング



内装のない状態で販売されているのが実状だ



書斎にも木がふんだんに使われている



階段にも木があしらわれている